

会社概要

会社概要 (2019年3月31日現在)

商号	株式会社テノックス
設立	1970年7月8日
資本金	17億1,090万円
従業員数	188名(連結277名)

役員体制 (2019年6月27日現在)

代表取締役社長	佐藤 雅之	執行役員	児玉 勝久
取締役執行役員	堀切 節	執行役員	又吉 直哉
取締役執行役員	坂口 卓也	執行役員	橋本 孔成
取締役執行役員	高橋 勝規	執行役員	迫田 一彦
取締役(監査等委員)	里見 雄冊		
取締役(監査等委員)	大森 勇一		
取締役(監査等委員)	竹口 圭輔		

- ※1. 監査等委員である取締役大森勇一氏及び竹口圭輔氏は、社外取締役であります。
 ※2. 監査等委員である取締役大森勇一氏及び竹口圭輔氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

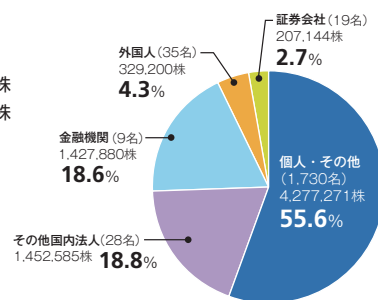
株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	単元株式数	100株
定時株主総会	毎年6月開催	証券コード	1905
基準日	定時株主総会：毎年3月31日 期末配当：毎年3月31日 中間配当：毎年9月30日	公告掲載URL	https://www.pronexus.co.jp/koukoku/1905/1905.html 当社の公告は電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都内において発行する日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社		
郵便物送付先・電話照会先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル 0120-782-031 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。		

株式の状況

(2019年3月31日現在)

発行可能株式総数 21,640,000株
 発行済株式総数 6,891,386株
 (自己株式802,694株を除く)
 株主数 1,821名



※自己株式802,694株については個人・その他に含めています。

株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
住商セメント株式会社	432,000	6.26
三菱商事株式会社	317,020	4.60
明治安田生命保険相互会社	253,000	3.67
小川 恭弘	230,500	3.34
有限会社福田商事	222,000	3.22
株式会社みずほ銀行	221,980	3.22
株式会社三井住友銀行	220,220	3.19
三井住友信託銀行株式会社	220,000	3.19
樽澤 佐江子	213,000	3.09
伊藤忠丸紅住商テクノスチール株式会社	200,000	2.90

※当社は自己株式802,694株を保有しておりますが、上記大株主より除外しております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

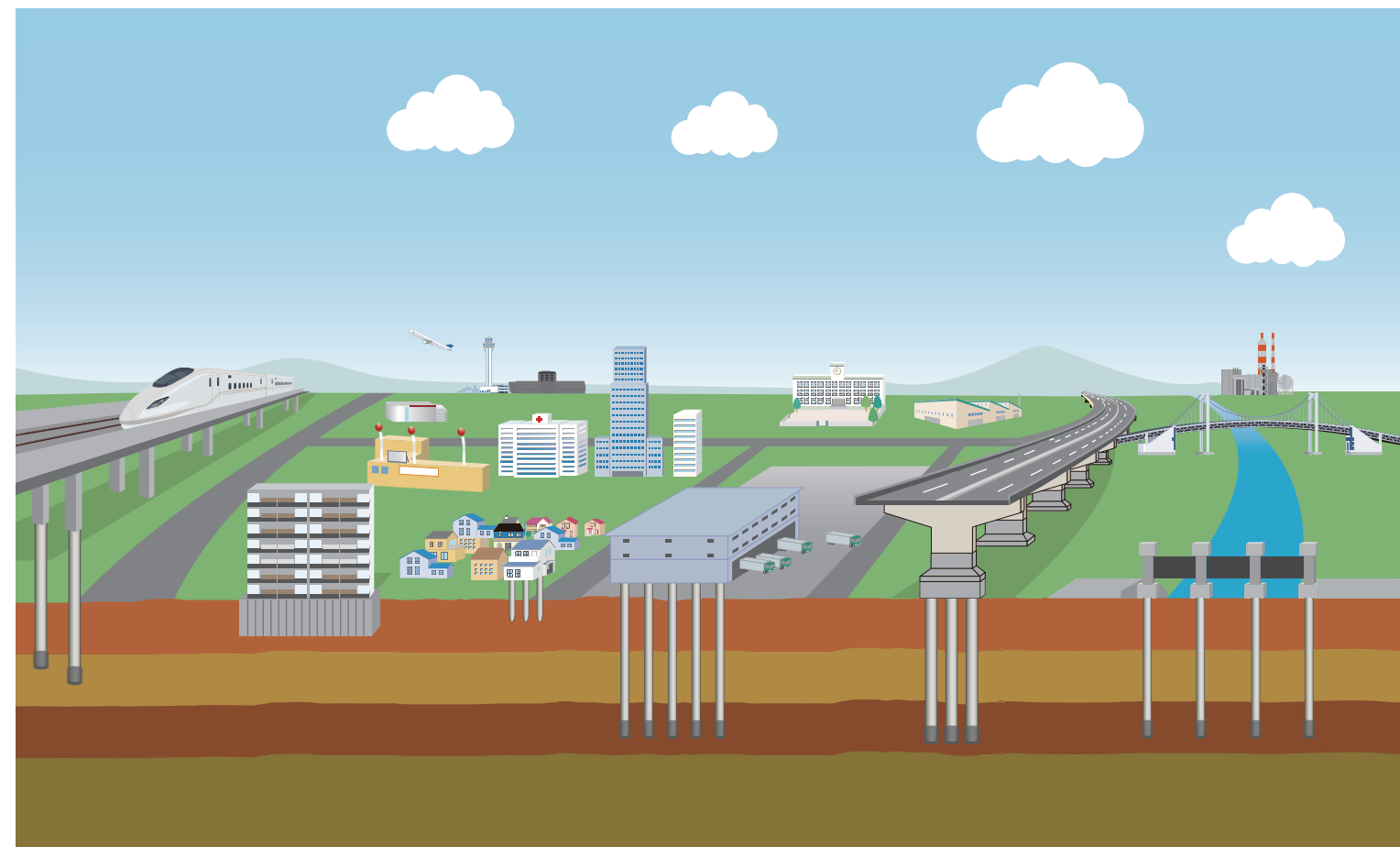
環境と共存し、確かな技術力で
 社会と暮らしを支える

Tenox REPORT 49th

第49期

株主通信

2018年4月1日～2019年3月31日





ごあいさつ

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

代表取締役社長の佐藤雅之でございます。

令和の新しい時代を迎え、「美しい和をもって社会に貢献する」会社として、設立以来築き上げてきた「テノックス」ブランドの更なる向上に努めてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも当社事業へのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **佐藤雅之**

ここに第49期株主通信 **TenoxREPORT** をお届けし、2018年度(2018年4月～2019年3月)の業績をご報告するとともに、中期経営計画の進捗、2019年度の業績見通しと配当についてご説明申し上げます。

業績のご報告

2018年度は国内経済が緩やかな回復基調を維持するなか、建設需要は好調な企業収益を背景にした民間設備投資と底堅い公共投資により堅調に推移いたしました。このような状況のもと、売上高は北陸新幹線などの大型基礎工事が寄与し、前年度比1.6%増の207億74百万円となりました。利益につきましては、営業利益は9億53百万円(前年度比27.2%増)、経常利益は10億10百万円(同28.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は6億40百万円(同22.2%増)となり、増収増益となりました。

中期経営計画の進捗

当社は昨年6月に、会社設立50周年の2020年度を最終年度とする中期経営計画「To The Next Future 2018 - 2020」を策定し、5つの課題を掲げました。その初年度となる2018年度の各課題への取り組みは次の通りです。

「安全・品質面での信頼性確保」と「新技術や新サービスの創出」につきましては、テノコラム工法の工事進捗状況をリアルタイムで可視化する施工管理システム『VCCS』(Visualization of Construction Control System)を実用化いたしました。これにより施工情報のデータ化のみならず、予期せぬ地盤の変化や地中障害への迅速かつ正確な対応が可能となり、品質を確保するとともに生産性の向上が見込まれ

ます。今後、順次全ての工法に展開してまいります。

「受注力の強化」につきましては、昨年4月に発足した営業推進室が物流施設や再生エネルギー事業者等への施主営業を展開しており、今後実を結ぶことと確信しております。

「海外事業」では、昨年8月にベトナムにおいて技術認証(TCCS)を取得したテノコラム工法を同国において普及させるため、今年1月に施工機2台を投入し施工体制を整えました。

2019年度は中期経営計画の2年目になります。中期経営計画の課題の取り組みに加えて、『働き方改革』へ力を注ぎ、「生産性の向上」をより一層推し進めてまいります。

2019年度(第50期)の業績見通し

2019年度(第50期)は、鉄道や高速道路等の大型杭基礎工事に加え、営業力強化による建築分野の地盤改良工事の受注増を見込んでおり、連結業績は売上高210億円、営業利益11億50百万円、経常利益12億円、親会社株主に帰属する当期純利益は8億円と増収、増益を計画しております。

「経営理念の実践」を行動目標に掲げ、当社本来の実力を業績として示すことができるよう、全社一丸となって最重要課題である「施工品質の向上」と「安全管理の強化」に取り組んでまいります。

配当方針と2019年度の配当について

配当につきましては、当該期の業績や財政状態に加え、中期的な見通しも勘案したうえで安定的な配当を決定するという方針のもと、基本的には連結配当性向30%程度を目安に実施することで株主の皆さまのご期待にお応えしたいと存じます。

この方針に基づき、2019年度の配当は1株当たり中間16円、期末17円とし、3円増配の年間33円を予定しております。

株主の皆さまにおかれましては、引き続き当社グループに対する変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



(後列左より)大森監査等委員(社外) 里見監査等委員 竹口監査等委員(社外)
(前列左より)坂口取締役 佐藤代表取締役社長 堀切取締役 高橋取締役

News & Topics

ベトナム・ハノイ市にてテノコラム工法の施工デモンストレーション開催

ベトナムの現地法人であるTENOX ASIAは、2019年1月にハノイ市に自社施工機を配備し、5月21日より3日間、主に日系建設会社様を対象にテノコラム工法の施工デモンストレーションを開催いたしました。

計9社からベトナム人スタッフの方々も含め約40名の方に参加いただきました。デモンストレーション後の質疑応答では、設計や施工管理に対する活発な質問や意見をいただき、テノコラム工法への関心の高さを実感いたしました。これを機にベトナムでのテノコラム工法の普及活動を加速させることができると確信しております。



コラムの出来形を説明(右:TENOX ASIAスタッフ)



各企業の皆さま

What's テノックス [Vol.8]

クローズアップ社員!



テノックスで働く女性営業職社員に仕事やキャリアプランについてインタビューしました。

Q なぜ建設業界を志望したのでしょうか?

父が建設会社で施工管理を行っていたので建設業界に親近感はありましたが、建設業界で働こうとは考えていませんでした。

転機は学生時代に経験した建設現場でのアルバイトで、創り上げることの達成感を知りました。また、女性の現場作業員が他にもいると聞いて刺激を受けました。この感覚が建設業界を志望するきっかけになりました。



テノコラム工法での工事立会の様子(左:本人)

Q 実際に働いてみていかがですか?

もともと人と話すことが好きなので、楽しく仕事ができています。自分が提案した工法が採用され受注にこぎつけた時は、もちろん喜びもありますが、それ以上に受注するまでに積上げてきたことが実って「ホッ」とする感じです。

知識や経験が足りないために思うように物事が進まないなど、実際は楽しいことより厳しい局面に立つことが多いですが、そのような時は上司や先輩にお力添えをいただき、他部署とも連携しながら乗り切っています。次に生きる経験をさせていただいていると実感しています。



テノコラム工法説明会の様子

Q 今後のキャリアプランを教えてください。

当面の目標は、技術提案力に磨きをかけることです。諸先輩のような対応力・柔軟性に追いつくにはまだまだ知識や経験が不足しているので、必要な資格取得の勉強もしています。昨年は「鋼管杭施工管理士」を取得できました。

数年後には結婚し、仕事と家庭を両立しながら充実した日々を送ることを夢に描きながら、テノックスで働く女性社員が活躍できるフィールドを広げる一助になりたいと思っています。私がそうであったように、施工の現場や営業の現場で私のことを見たり聞いたりすることで、刺激を受けてくれる女性が1人でも多くいてくれたら嬉しいです。

売上高 **207億74** 百万円

営業利益 **9億53** 百万円

経常利益 **10億10** 百万円

親会社株主に帰属する
当期純利益 **6億40** 百万円

1株当たり年間配当金 **30** 円

配当性向 **32.5** %

連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

	第48期末* 2018年3月31日現在	第49期末 2019年3月31日現在
資産の部		
流動資産	15,140	POINT 1 14,026
固定資産	2,852	2,739
有形固定資産	2,238	2,380
無形固定資産	36	32
投資その他の資産	576	326
資産合計	17,992	16,766
負債の部		
流動負債	6,084	POINT 1 4,600
固定負債	514	528
負債合計	6,599	5,129
純資産の部		
株主資本	11,041	11,281
その他の包括利益累計額	52	36
新株予約権	74	65
非支配株主持分	225	253
純資産合計	11,393	11,636
負債純資産合計	17,992	16,766

*「税効果会計に係る会計基準」の一部改正を適用しており、第48期末数値を組み替えております。

- POINT 1** 工事損失引当金の減少や有形固定資産及び自己株式の取得等により現金預金が減少
- POINT 2** 鉄道や震災復興関連等の杭工事、物流施設や工場の地盤改良工事が増加
- POINT 3** 施工機の稼働が高まり固定費を吸収したこと、一般管理費を抑制したことにより増益

連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

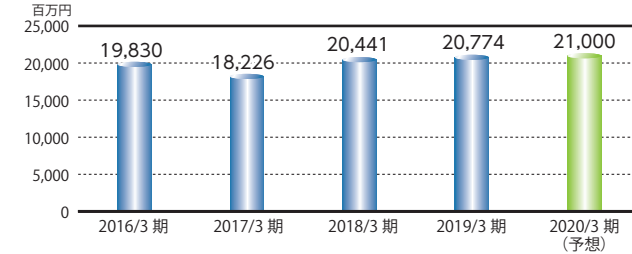
	第48期 2017年4月1日から 2018年3月31日まで	第49期 2018年4月1日から 2019年3月31日まで
売上高	20,441	POINT 2 20,774
売上原価	17,877	18,121
売上総利益	2,564	POINT 3 2,653
販売費及び一般管理費	1,815	1,700
営業利益	749	POINT 3 953
経常利益	785	1,010
税金等調整前当期純利益	748	1,015
当期純利益	534	669
非支配株主に帰属する当期純利益	10	29
親会社株主に帰属する当期純利益	523	640

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

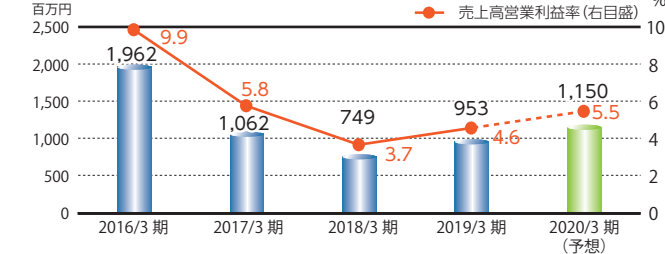
(単位:百万円)

	第48期 2017年4月1日から 2018年3月31日まで	第49期 2018年4月1日から 2019年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,059	217
投資活動によるキャッシュ・フロー	△407	△960
財務活動によるキャッシュ・フロー	△205	△430
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,446	△1,173
現金及び現金同等物の期首残高	7,153	8,599
現金及び現金同等物の期末残高	8,599	POINT 1 7,426

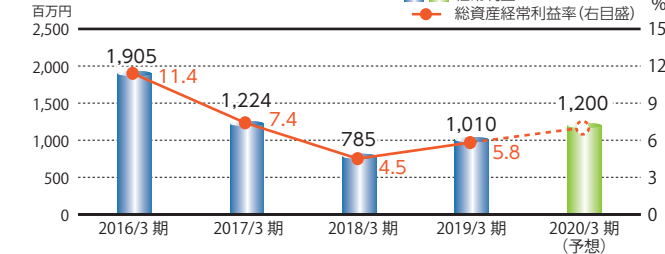
売上高



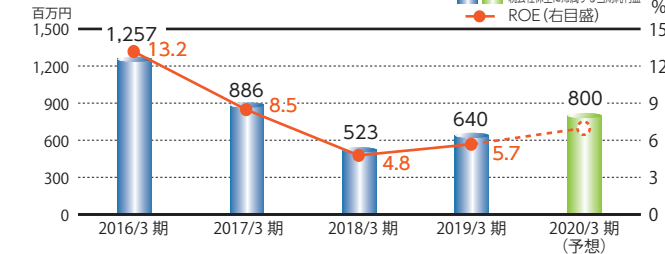
営業利益/売上高営業利益率



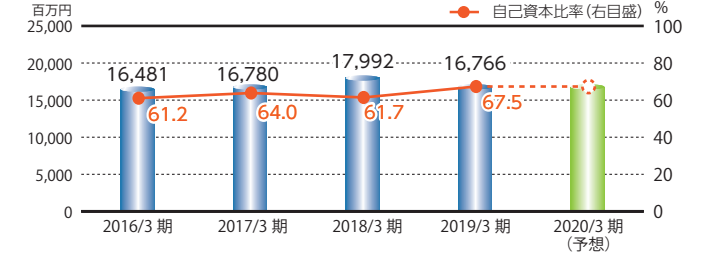
経常利益/総資産経常利益率



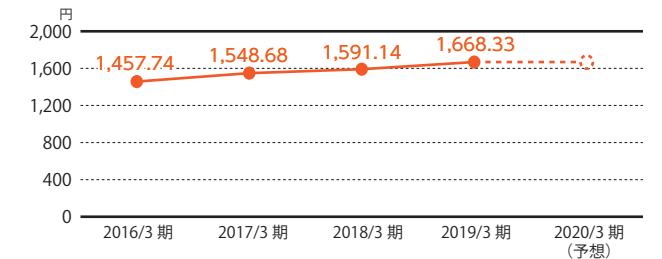
親会社株主に帰属する当期純利益/ROE



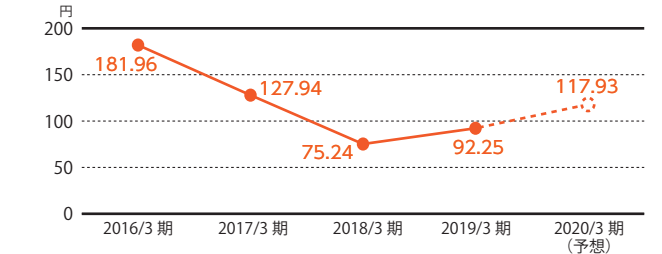
総資産/自己資本比率



1株当たり純資産



1株当たり当期純利益



1株当たり期末(中間)配当金/配当性向

